

母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための 環境整備に関する経過報告

研究代表者 山縣 然太朗（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究分担者 山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）
松浦 賢長（福岡県立大学看護学部）
上原 里程（京都府立医科大学地域保健医療疫学）
永光 信一郎（久留米大学小児科学講座）
横山 美江（大阪市立大学大学院看護学研究科）
鈴木 孝太（愛知医科大学医学部衛生学講座）
市川 香織（東京情報大学看護学部看護学科）
近藤 尚己（東京大学大学院医学系研究科）
川口 晴菜（大阪母子医療センター）
研究協力者 秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

「健やか親子21（第2次）」の課題である母子保健領域における格差の是正および母子保健情報の利活用の推進のため、平成28～30年度の「母子保健改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班（研究代表者：山縣然太朗）に引き続き、本年度から「母子保健情報を活用した「健やか親子21（第2次）」の推進に向けた研究」班（以下、本研究班）が新たに始まった。本研究班では、これまでの研究活動に加え、令和元年8月に取りまとめられた「健やか親子21（第2次）」の中間評価で明らかとなった新たな課題の解決に重要と考える多職種、他施設、異なる課間の連携を促進すべく、モデル事業の実施や、連携に必要となってくる情報利活用をさらに促進させていくことを目的としている。本稿では、本年度の母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備について、本研究班による検討会議、研修会等の実施に関する経過を報告する。

本研究班では、「健やか親子21（第2次）」の中間評価に資する課題の整理」「母子保健領域の「知識」データベースの構築」「乳幼児健診情報システムの改修」「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」の4つに取り組むこととした。本年度は1年目であり、第1回の班会議では、上記4つの計画を示した。また、本年度は中間評価が行われる年であったため、厚生労働省担当課と共にこれまでの健やか親子21の過程を含め、第2次の指標の現状と課題について、また、どのように評価するのかを検討した。

「健やか親子21（第2次）」の中間評価に資する課題の整理については、中間評価が始まる前に、「健やか親子21（第2次）」に関する情報共有・勉強会を開催し、平成30年度子ども・子育て支援推進調査事業結果をもとに各指標についての現状と課題について議論した。また、「母子保健領域の「知識」データベースの構築」については、どのような利用者を想定して、どのような内容にするのかを議論し、掲載する情報の分野と担当を決定した。そして、「乳

「幼児健診情報システムの改修」では、8月に終了した中間評価結果を受け、乳幼児健診情報システムに含まれている指標に関する修正を行った。最後4つ目の「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」では、大阪と東京において、産科医療機関と地域との情報共有について、ハイリスク妊婦の抽出のための問診票・チェックリストの作成および、産科医療機関と自治体との連携に関する研究が進められた。また、福岡県では、医療機関での社会的ハイリスク妊婦とその出生児の調査や、自治体における乳幼児健診のデータを利活用して母子の健康改善に活かす研究、そしてこれらを俯瞰できる行政と大学の協力体制の整備を進めるなど、徐々にモデル地区での実践活用が勧められており、いずれはこれらを取りまとめ、汎用性の高い利活用モデルの構築を目指していきたい。

A. 目的

「健やか親子21（第2次）」が開始されてから5年が経過した。平成25年度に実施された「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会において、母子保健事業の推進のための母子保健情報の利活用が不十分とされ、「問診内容等情報の地方公共団体間の比較が困難なこと」、「情報の分析・活用ができていない地方公共団体があること」、「関連機関の間での情報共有が不十分なこと」という課題が挙げられた。

これらの課題を受け、我々は平成28～30年度において「母子保健改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班（研究代表者：山縣然太郎）として、「健やか親子21（第2次）」の課題である母子保健領域における格差の是正および母子保健情報利活用の推進のため、乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）を中心とした市町村事業のデータの利活用システムの構築と母子保健情報利活用のガイドラインを作成するなどして、母子保健情報利活用の促進に尽力してきた。そして、令和元年度には「健やか親子21（第2次）」の中間評価が行われ、「十代の自殺」「児童虐待」「妊産婦、産後の父親のメンタルヘルス」など、多くの新たな課題が明らかとなった。本研究班では、これまでの研究活動に加え、新たな課題の解決に重要と考

える多職種、他施設、異なる課間の連携を促進すべく、モデル事業の実施や、連携に必要となってくる情報利活用をさらに促進させていくことを目的としている。

本稿では、本年度の母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備について、本研究班による検討会議、研修会等の実施に関する経過を報告する。

B. 方法

1. 母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備に関する検討会議

令和元年度は、研究班全体の会議（班会議）を2回、中間評価に向け、厚生労働省担当課と「健やか親子21（第2次）」に関する情報共有・勉強会、母子保健・医療情報データベースの再構築に向けた打ち合わせ会を各1回ずつ実施した。会議の日程と予定した内容は次の通りである。

【班会議】

- 第1回班会議：令和元年6月7日（金）
（時間：18：00～21：00 場所：東京）

《検討内容》

- 1) 今期の研究計画内容について
- 2) 「健やか親子21（第2次）」中間評価に向

けての検討

3) 公衆衛生学会における自由集会について

- 第2回班会議：令和2年1月17日（金）
（時間：18：00～20：00 場所：東京）

《検討内容》

- 1) 研究分担者の研究報告
- 2) 本年度の総括
- 3) 来年度の方向性、役割分担について
- 4) 報告書作成について

【「健やか親子21（第2次）」に関する情報共有・勉強会】

日時：令和元年5月21日（火）
10：00～17：00

場所：東京

《検討内容》

- 1) これまでの「健やか親子21」についての概要説明、および「健やか親子21（第2次）」中間評価に向けての調査結果について
- 2) 「健やか親子21（第2次）」中間評価に向けての検討

【母子保健・医療情報データベース再構築に関する打ち合わせ】

日時：令和2年1月17日（金）
14：00～17：30

場所：東京

《検討内容》

- 1) 母子保健・医療情報データベースの再構築について
 - ・ 現状と課題
 - ・ 今後、どのようなデータベースにしていきたいか
 - ・ 決定したテーマ・話題のエビデンスの確認

- ・ データベースのホームページデザイン・コンテンツ等

2. 2019年度母子保健指導者養成研修会（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）における「母子保健指導者総合研修会（伝達研修）」

2019年度母子保健指導者養成研修会（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）、「母子保健指導者総合研修会（伝達研修）」において、次の講義とグループワークの準備を行った。

日時：令和元年8月5日（月）～6日（火）
場所：平和と労働センター・全労連会館2階
《1日目》

- ディスカッション①：「母子に寄り添った支援のための連携」（担当：山縣 山梨大学）

《2日目》

- 講義③：「母子保健 連携と情報の利活用」（担当：山縣 山梨大学）
- ディスカッション②：「母子保健活動の在り方を考える」（担当：秋山 山梨大学）

（倫理面への配慮）

本研究班は、山梨大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 結果

1. 母子保健情報を利用した「健やか親子21（第2次）」推進のための環境整備に関する検討会議

【班会議】

- 第1回班会議検討内容

日時：令和元年6月7日（金）
（時間：18：00～21：00）

場所：ステーションコンファレンス東京 605B

《検討結果》

1) 今期の研究計画内容について

(1) 本研究班の目的

本研究の目的は、「健やか親子21（第2次）」の目標達成や新たな課題に関する科学的知見の収集・提案をすることと、効率的効果的な母子保健事業の実施に資する普及可能な汎用性の高い利活用モデルを構築すること。

(2) 研究計画

※下線部分は令和元年度実施内容

- 「健やか親子21（第2次）」の中間評価に資する課題の整理
- ・ 乳幼児健診で収集したデータの分析（2019年度）
＜担当：全員で分担＞
- ・ 新たな課題の抽出（2019年度）
＜担当：全員で分担＞
- 母子保健領域の「知識」データベースの構築
- ・ 母子保健・医療情報データベースの見直し（2019～2020年度）
＜分担：鈴木、近藤、山縣＞
- ・ 新たな母子保健領域の「知識」データベースの構築（2021年度）
＜担当＞
行政・一般向け：横山、上原、山縣
学術・専門家向け：鈴木、市川、川口、山縣
- 乳幼児健診情報システムの改修
- ・ 中間評価による指標見直しを反映した改修（2019年度）
＜担当：山縣、委託＞
- ・ 指標のモニタリングシステムの構築（2020年度）

＜担当：山崎、松浦、上原、横山、山縣、委託＞

- 全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築
- ・ モデル事業による情報基盤整備（2019～2021年度）
1) 全国で5か所程度の母子保健情報利活用モデル事業を実施。
＜担当：山縣、山崎、上原、松浦、研究協力者＞
2) 医療機関、企業、研究機関等と連携して母子保健情報を活用している自治体の実地調査を行い、実施方法、予算、人材、活用方法、効果などについてまとめる。
＜担当：横山、川口、上原、山崎、永光、鈴木、山縣＞
- ・ 母子保健情報利活用実践ガイドラインの作成（2021年度）
＜担当：全員＞

2) 「健やか親子21（第2次）」中間評価に向けての検討

- ・ 各指標についての評価の検討
- ・ 新たな課題（案）についての検討

3) 公衆衛生学会における自由集会について

今年度も引き続き、毎年秋に開催される公衆衛生学会（第78回日本公衆衛生学会学術集会：高知）における自由集会で「健やか親子21」に関する会を開催することに決定した。表題は「第78回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く健やか親子21（第2次）」とし、世話人を山縣然太郎（山梨大学）とした。内容は、「健やか親子21（第2次）」の中間評価の結果を受

け、都道府県、保健所、市区町村が取り組むべき課題について考え、参加者と議論することとした。なお、公衆衛生学会における自由集会についての報告は、後述の分担研究報告書(第78回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会～知ろう・語ろう・取り組もう～一步先行く 健やか親子21(第2次)第5回報告:秋山有佳)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

● 第2回班会議検討内容

日時: 令和2年1月17日(金)

(時間: 18:00~20:00)

場所: ステーションコンファレンス東京
605A

1) 研究分担者の研究報告

(1) 山崎 嘉久(佐々木 溪円)

<研究テーマ>

- ・ 乳児の母親のヘルスリテラシーと幼児期の生活習慣との関連について

<報告>

- ・ 乳児期の菓子や甘味飲料(甘い間食)の摂取と生活習慣との関連
- ・ 上記の結果を受け、乳幼児の母親の健康情報に関するアンケートの実施について

※ 本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(母親のヘルスリテラシー及び健康情報の情報源に関する研究:山崎嘉久)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(2) 上原 里程

<研究テーマ>

- ・ 育てにくさを感じる親に寄り添う支援の関連要因:生態学的研究

<報告>

- ・ 重点課題①の健康水準の指標と環境整備の指標(発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制がある市区町村の割合)との関連性に焦点を当て、「平成29年度厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業『健やか親子21(第2次)』に関する調査研究報告書(平成30年3月、日本家族計画協会)」のデータを用いた生態学的研究を行った。

- ・ 3~4か月児健診時点での育てにくさを感じた時に相談先を知っている割合と、発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制がある市区町村の割合に関連がある可能性がある。
- ・ 関連性の有無については継続的に観察していく必要がある。

※ 本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(健やか親子21(第2次)重点課題①育てにくさを感じる親に寄り添う支援の関連要因:生態学的研究:上原里程)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(3) 永光 信一郎

<研究テーマ>

- ・ 自治体における母子保健情報の利活用に関する研究(福岡県における調査研究)

<報告>

- ・ ライフステージから、母子の健康改善を考えることを目的とし、1. 医療機関での社会的ハイリスク妊婦とその出生児の実態調査、2. 乳幼児健診のデータを利用した母子の健康改善のために必要な項目の抽出(育てにくさの要因)、3. 思春期の子どもたちの保健課題の調査、4. 全体を俯瞰できる地域協力体制:中

核市(久留米市)における行政と大学が協働、という4項目を実施することとした。

※ 本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(久留米市における社会的ハイリスク妊産婦と出生児に関する研究:酒井さやか)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(4) 近藤 尚己

＜研究テーマ＞

- ・ 母子保健の取り組み状況の情報収集に関する研究－市区町村での事故防止の取り組み情報を例にした考察－

＜報告＞

- ・ 子どもの事故防止に関する最近の実証研究の結果とその活用を例に取り、今後の母子保健活動の情報データベースのあり方を検討することを目的とした。
- ・ 今後の母子保健・医療情報データベースの改訂には、1. 健康の社会的決定要因・健康格差・貧困・ひとり親といった新しいキーワードを追加、2. 最新のデータを追加、3. 英語の文献、あるいはその日本語総説を追加、4. 全国調査か否かの区別が付きやすい情報の整理、を考慮することが有益と考えられる。

※ 本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(母子保健の取り組み状況の情報収集に関する研究－市区町村での事故防止の取り組み情報を例にした考察－:近藤尚己)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

2) 本年度の総括、来年度の方向性、役割分担について

来年度の研究計画

- ・ 情報の利活用の好事例の収集と分析。
- ・ 乳幼児健診情報の全国データ収集のシステムの構築。
- ・ 母子保健情報の利活用ガイドラインの見直しを進め、「利活用実践ガイドライン」の作成開始。

役割分担は追って、研究代表者より連絡することとなった。

3) 報告書作成について

- ・ 報告書提出は厚生労働科学研究成果データベースへのアップロードとなる。
- ・ 容量制限、使用不可能な文字等、いくつか注意が必要な事項がある。
- ・ 報告書提出締め切りは、令和2年3月13日(提出先は山縣班事務局の秋山まで)。

【「健やか親子21(第2次)」に関する情報共有・勉強会】

日時: 令和元年5月21日(火)

10:00~17:00

場所: ステーションコンファレンス東京 401

《検討結果》

- 1) これまでの「健やか親子21」についての概要説明、および「健やか親子21(第2次)」中間評価に向けての調査結果について
- 2) 「健やか親子21(第2次)」中間評価に向けての検討

平成30年度子ども・子育て支援推進調査事業結果をもとに、山縣および各課題を執筆した分担研究者からこれまでの「健やか親子21」についての経緯等を含め説明し、厚生労働省担当者との認識の共有を図った。また、各指標について、平成30年度子ども・子育て支援推進調査事業結果報告書をもとに、各指標の状況把握、および中間評価に向けて問題点や今後の課題等についての話し合いを行った。

【母子保健・医療情報データベース再構築に関する打ち合わせ】

日時：令和2年1月17日（金）

14：00～17：30

場所：ステーションコンファレンス東京
605A

《検討結果》

母子保健・医療情報データベースの再構築によって改修される新たなデータベースの目的は、子育てに関するエビデンスを明確にすることとした。また、新たなデータベース構築は、現在行われている子育てに関連する育児方法や健康支援について科学的エビデンスがどのレベルで存在するのかについて明らかにすることで、子育て支援に携わる専門家が支援の実施を考慮したり、母親の相談対応に明確な回答を与えたりすることができることが期待される。そして、子育て支援のエビデンスのレベルは研究実施をする必要性の基準になる（医療従事者が今行っている指導・支援等についての信ぴょう性を確認してもらいものとする）というところに意義があると考えられる。

決定した新たなデータベースの利用者、構築方法、掲載する分野と役割分担、今後のスケジュールを以下にまとめる。

1) 利用者

保健師、助産師、医師、保護者

2) 方法

- 各担当分野について、クリニカルクエッション、Q&A、成書、ネット等で各自項目を挙げ、エビデンスを調べる（回答のエビデンスをつくる）。
- Q&Aを用いる場合は、回答者の回答に対して「違う」等の意見は言わない。

- Q&A はそのまま使用するのではなく、トピックとして使用する（文言等を変える等）。

※項目挙げに関する参考書籍・資料等

- * 東京医学社. 周産期医学
(https://www.tokyo-igakusha.co.jp/f/b/index/zc01/6/oa_table/b_z_3.html)
- * チャイルドヘルス
- * 授乳・離乳の支援ガイド
- * その他、上記に限らない

3) 分野と役割分担

分野	担当者
食（母乳・授乳・離乳）	市川
ベビーマッサージ	市川
運動・遊び	松浦
睡眠（月齢による睡眠時間、就寝時間等）	永光
父親の育児参加（父親が育児をするとどうなるか、等）	永光
ICT（スクリーンタイム）	山梨大学
歯科（嚙下・歯みがき）	上原
外気浴（日光浴）	杉浦 佐々木
事故予防	杉浦
アレルギー・スキンケア	杉浦 佐々木
受動喫煙	佐々木
日常生活上の化学物質（殺虫剤、洗剤、芳香剤、電磁波、磁場（リニア）、等）	堀内
発達・脳科学・早期教育・褒める	堀内
健診時期（なぜ、健診は1歳6か月と3歳なのか？学童にな	山崎

る前にどのくらいの頻度で研究した方が良いのか、等)	
We are having baby やフィンランドで用いられている資料についての情報収集	横山

4) 今後のスケジュール

時期	内容
5月	班会議でまとめ、不足事項を検討する。データベースの基本デザインを決める。
6月	データベースの構築依頼
7月	不足分含めまとめる
9月	データベースの試験運用
10月	モニタリングによる意見聴取
11月	モニタリングの結果を用いて内容の再検討
12月	本格運用開始

2. 2019年度母子保健指導者養成研修会（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）における「母子保健指導者総合研修会（伝達研修）」

2019年度母子保健指導者養成研修会（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）、「母子保健指導者総合研修会（伝達研修）」において、講義とグループワークを行った。実施日程および場所は予定通りに実施された。

《実施内容》

【1日目】

- ディスカッション①：「母子に寄り添った支援のための連携」（担当：山縣 山梨大学）

ディスカッション①では、1日目の講義①「食生活から見た母子の健康管理」、講義②「妊

産婦のメンタルヘルスへの理解を深める」、を踏まえ、母子に寄り添った支援のためにどのような連携が必要なのか、まずは各グループで現状と課題を挙げ、その後連携について話し合った。

【2日目】

- 講義③：「母子保健 連携と情報の利活用」（担当：山縣 山梨大学）

講義③では、以下のGIO（一般目標）および、SBOs（行動目標）を設定した。

GIO（一般目標）

母子保健活動の向上のために、母子保健情報の利活用の重要性を理解し、実践できる。

SBOs（行動目標）

1. 「健やか親子21（第2次）」の趣旨を踏まえ、母子保健情報の利活用することの目的や考え方について理解する。
2. なぜ、個別データの分析が必要かを理解し、実践できる。
3. なぜ、縦断データの分析が必要かを理解し、実践できる。
4. 結果を交絡因子踏まえて解釈できる。
5. 情報の利活用についての国の状況を知る。

上記のGIO、SBOs 達成のため、以下の7点にポイントをおいて講義を行った。

- 1) 連携とは
- 2) なぜ、個別データの活用が必要なのか
- 3) なぜ、縦断データの活用が必要なのか
- 4) 母子保健活動にはどのような情報が必要か
- 5) 乳幼児健診入力システムによる情報の利活用
- 6) 健やか親子21（第2次）における乳幼児健診の位置づけ

7) データヘルス時代の母子保健情報の利活用

1) については、横断的連携と縦断的連携の違いについてを説明した。2) では、母子保健の現場で多く収集されている乳幼児健診データの利活用の意義や集計データと個別データの違い等について説明した。3) では、縦断データの利活用例を挙げつつ、その重要性を説明した。4) では、5歳児発達障害児への介入とその効果という例を挙げ、例について調べるためにはどのようなデータが必要なのかを一緒に考えてもらい理解を深めた。5) については、乳幼児健診情報システムの概要図を示し、活用方法を説明した。6) については、乳幼児健診でとることとなっている必須15項目について、なぜ全国で同じ設問で調査することが必要なのかを説明した。そして、7) では、2018年に検討会が開かれた、「データヘルス時代の母子保健情報の利活用に関する検討会」の中間評価報告書を参考に、昨今の国の動きや今後どうなっていくか、そして何をしなければいけないのか、等について説明した。

- ディスカッション②:「母子保健活動の在り方を考える」(担当:秋山 山梨大学)
ディスカッション②では、各グループにおいて、以下の課題を話し合い、発表してもらった。

- 1) あなたの都道府県の母子保健の課題は何ですか？
- 2) その課題の原因にはどのようなことが考えられるでしょうか？
- 3) 改善方法を検討してみましょう。
- 4) 今回の研修を受けてあなたが伝達講習をする際のアウトラインを作成してみましょう。

1) ~4) について、都道府県レベル、保健所レベル、市町村レベルで検討し、各々の立場での困っていることや必要な支援等を共有しあってもらった。

D. 考察

本稿では、母子保健情報を利用した「健やか親子21(第2次)」推進のための環境整備について、本研究班による検討会議、研修会の実施に関する経過報告を行った。

「健やか親子21(第2次)」においては、第1次の最終評価時にさらなる情報の利活用の促進が必要との見解が示された。これらの課題是正のため、平成28~30年度において「母子保健改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班(研究代表者:山縣然太郎)として、情報の利活用促進に向けた研究を行ってきた。そして、令和元年度には「健やか親子21(第2次)」の中間評価が行われ、新たな課題が明らかとなった。本研究班ではこれまでの研究に加え、新たな課題解決のために重要と考えられる多職種、他施設、異なる課間の連携促進のため、モデル事業の実施や、連携に必要なってくる情報利活用をさらに促進すべく、次の4つに主に取り組むこととした。

- 「健やか親子21(第2次)」の中間評価に資する課題の整理
- 母子保健領域の「知識」データベースの構築
- 乳幼児健診情報システムの改修
- 全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築

本年度は3年計画の1年目であり、第1回の班会議では、上記4つの計画について研究代表者から説明を行った。また、本年度は中間評価が行われる年であったため、厚生労働省担当課と共にこれまでの「健やか親子21」の過程を

含め、第2次の指標の現状と課題について、また、どのように評価するのかを検討した。

「健やか親子21（第2次）」の中間評価に資する課題の整理については、中間評価が始まる前に、「健やか親子21（第2次）」に関する情報共有・勉強会を開催し、平成30年度子ども・子育て支援推進調査事業結果をもとに各指標についての現状と課題について議論した。また、「母子保健領域の「知識」データベースの構築」については、どのような利用者を想定して、どのような内容にするのかを会議で議論し、掲載する情報の分野と担当を決定した。そして、「乳幼児健診情報システムの改修」では、8月に終了した中間評価結果を受け、乳幼児健診情報システムに含まれている指標に関する修正を行った。最後4つ目の「全国へ普及可能な汎用性の高い利活用モデルの構築」では、大阪と東京において、産科医療機関と地域との情報共有について、ハイリスク妊婦の抽出のための問診票・チェックリストの作成および、産科医療機関と自治体との連携に関する研究が進められた。また、福岡県では、医療機関での社会的ハイリスク妊婦とその出生児の調査や、自治体における乳幼児健診のデータを利活用して母子の健康改善に活かす研究、そしてこれらを俯瞰できる行政と大学の協力体制の整備を進めるなど、徐々にモデル地区での実践活用が勧められており、いずれはこれらを取りまとめ、汎用性の高い利活用モデルの構築を目指していきたい。

E. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 上原里程, 篠原亮次, 秋山有佳, 市川香織, 尾島俊之, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣 然太郎: 次子出産を希望しないことと早期産との関連: 健やか親子21 最終評価より.

- 2) 日本公衆衛生雑誌 66 (1) : 15-22. 2019.
- 2) 大澤絵里, 秋山有佳, 篠原亮次, 尾島俊之, 今村晴彦, 朝倉敬子, 西脇祐司, 大岡忠生, 山縣然太郎: 乳幼児期における適切な時期の予防接種行動に関連した個人レベルおよび地域レベル要因の検討. 日本公衆衛生雑誌 66 (2) : 67-75. 2019.2
- 3) 山縣然太郎, 秋山有佳: 健やか親子21・健康日本21 からみた子どもの生活習慣と生活環境. 子どもと発育発達 17(1) : 31-35. 2019.4
- 4) Makiko Sampei, Tsuguhiko Kato, Aurelie Piedvache, Naho Morisaki, Junko Saito, Yuka Akiyama, Ryoji Shinohara, Zentaro Yamagata, Kevin Y. Urayama, Naoki Kondo: Municipality-level checklist to promote parental behaviors related to prevention of unintentional injury in young children: a multilevel analysis of national data. Journal of Epidemiology. 2019 Sep 14. doi: 10.2188/jea.JE20190079.
- 5) Tadao Ooka, Yuka Akiyama, Ryoji Shinohara, Hiroshi Yokomichi, Zentaro Yamagata: Individual and regional characteristics associated with maternal smoking during pregnancy in Japan: Healthy Parents and Children 21. Int J Environ Res Public Health. 2019 Dec 25;17(1). pii: E173. doi: 10.3390/ijerph17010173.

2. 学会発表

- 1) 山崎さやか, 篠原亮次, 秋山有佳, 山縣然太郎: 子どもの事故に対する予防行動と母親の育児の孤立化との関連—健やか親子21 最終評価・全国調査データから—。第

- 66 回日本小児保健協会 学術集会. 2019 年 6 月 20 日-22 日. タワーホール船堀 (東京都江戸川区). 学術集会講演集 P. 223.
- 2) 座長: 山縣然太朗, 佐藤拓代 シンポジスト: 小林秀幸 (当日発表者: 知念希和), 上原里程, 山崎嘉久, 佐々木溪円, 松浦賢長, 原田直樹: 健やか親子 21 (第 2 次) 中間評価と成育基本法. 第 78 回日本公衆衛生学会総会. 2019 年 10 月 23 日~10 月 25 日. 高知市文化プラザかるぼーと他 (高知県高知市). 総会抄録集 P. 132~134.
- 3) 久島萌, 秋山有佳, 山縣然太朗: 母親の認識する父親の育児参加に影響する要因検討-「健やか親子 21」最終評価より-. 第 78 回日本公衆衛生学会総会. 2019 年 10 月 23 日~10 月 25 日. 高知市文化プラザかるぼーと他 (高知県高知市). 総会抄録集 P. 384.
- 4) 上原里程, 秋山有佳, 市川香織, 尾島俊之, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太朗: 「健やか親子 21 (第 2 次)」育てにくさを感じる親に寄り添う支援の関連要因. 第 78 回日本公衆衛生学会総会. 2019 年 10 月 23 日~10 月 25 日. 高知市文化プラザかるぼーと他 (高知県高知市). 総会抄録集 P. 383.
- 5) 上原里程, 秋山有佳, 市川香織, 尾島俊之, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太朗: 後期早産児を持つ母親の特性: 健やか親子 21 最終評価より. 第 30 回日本疫学会学術総会. 2020 年 2 月 20 日~22 日. 京都大学百周年時計台記念館 (京都府京都市). P. 167.

なし

3. その他

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録